ILC の物理と測定器 LOI から DBD へ

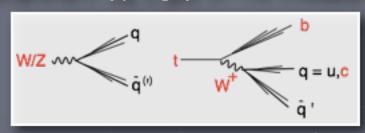
藤井恵介

2010年7月13日 LC 推進委員会

ILC 実験の基本理念

事象をファイマン図を見るがごとくに見、散乱行列を測るように測る

事象を基本粒子 (q, l, gb) レベルで再構成する



ジェット不変質量 --> W/Z/t ID \sim p^{μ} --> 角分布解析 --> s^{μ}

運動量欠損 --> 間接的なニュートリノ検出

二次、三次バーテックスの検出 薄く高分解能なバーテックス検出器

Particle Flow Analysis 高分解能飛跡検出器

超細密カロリメター

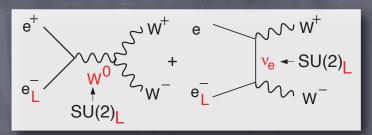
不感領域の無さ

10 mrad あるいはそれ以下まで HCAL も含め全てソレノイド (B>3T) の内側



事象をファイマン図を見るがごとくに見る

偏極ビームでファイマン図を選択する



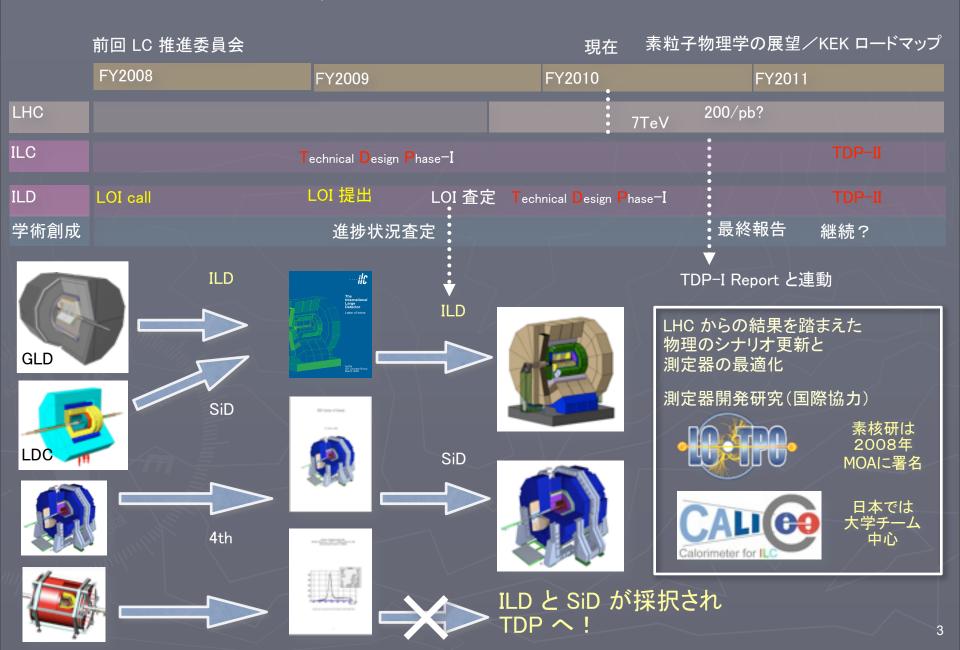
高エネルギーで対称性が回復すると 右巻き電子ビームに対し

 $\sigma_{WW} \rightarrow 0$



事象を散乱行列を測るように測る

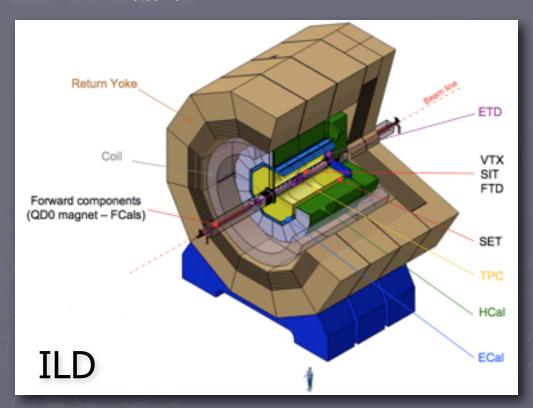
タイムライン



International Large Detector

設計理念実現には LHC の1桁上を行く性能が要求される

ILD 測定器案



Letter of Intent (LOI) に向けた測定器コンセプト・グループ再編 GLD (アジア中心) + LDC (ヨーロッパ中心) -> ILD (2007秋) ILD の特徴: TPC + 細密 CAL -> PFA によるジェットモードでの基本粒子 (W/Z/t/H..) 再構成を目指す





2009年3月末 LOI 提出 2009年9月 IDAG による承認 2012年末 DBDR 提出へ

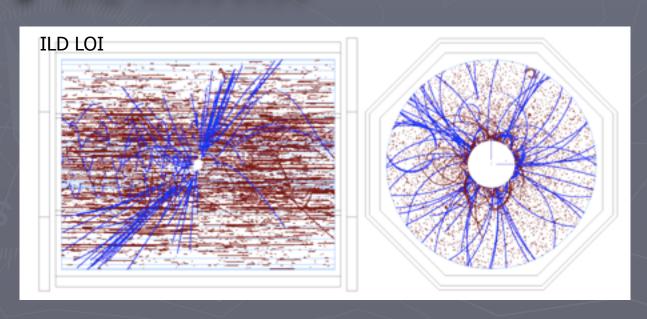
物理と測定器最適化

物理作業部会(含む理論)+ACFA-SIM

東北、KEK、東大、明治学院、日本歯科、信州、富山、神戸、広島

測定器の詳細を組み込んだフルシミュレーション

- 標準模型:全チャンネル・サンプル(標準 BG サンプル)
- 50M事象 @ 250/500 GeV
- CPU: 1500 コア×3ヶ月
- データ量:70TB (DST:1TB)
- ビーム・バックグラウンド



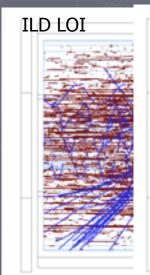
物理と測定器最適化

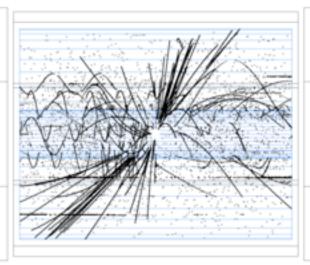
物理作業部会(含む理論)+ACFA-SIM

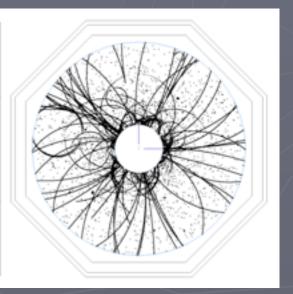
東北、KEK、東大、明治学院、日本歯科、信州、富山、神戸、広島

測定器の詳細を組み込んだフルシミュレーション

- 標準模型:全チャンネル・サンプル(標準 BG サンプル)
- 50M事象 @ 250/500 GeV
- CPU: 1500 コア×3ヶ月
- データ量:70TB (DST:1TB)
- ビーム・バックグラウンド







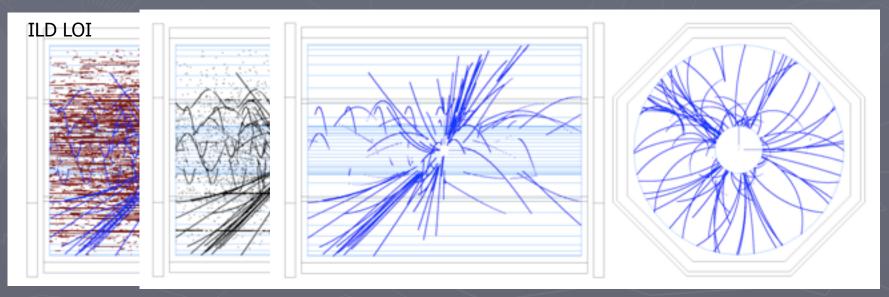
物理と測定器最適化

物理作業部会(含む理論)+ACFA-SIM

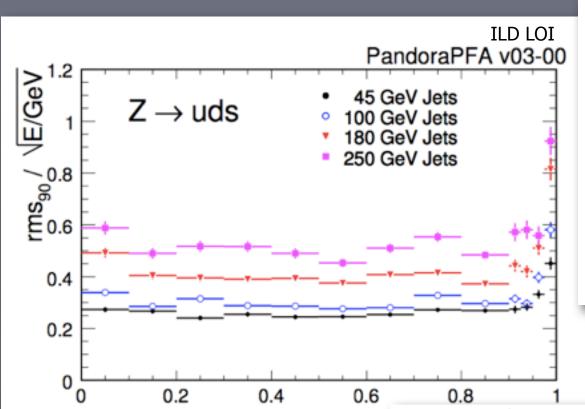
東北、KEK、東大、明治学院、日本歯科、信州、富山、神戸、広島

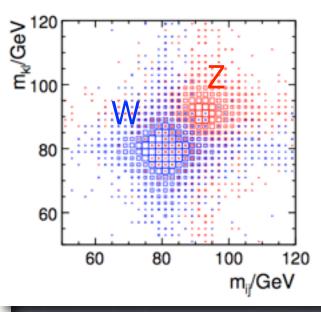
測定器の詳細を組み込んだフルシミュレーション

- 標準模型:全チャンネル・サンプル(標準 BG サンプル)
- 50M事象 @ 250/500 GeV
- CPU: 1500 コア×3ヶ月
- データ量:70TB (DST:1TB)
- ビーム・バックグラウンド



PFA 性能





			X 1 /	
$D \vdash V$	→ + H ⊥ <i>→</i>		された	
PEA		_J		
	ニコンハ・ハンハー	O HE		

Jet Energy	raw rms	rms_{90}	$\text{rms}_{90}/\sqrt{E_{jj}/\text{GeV}}$	σ_{E_j}/E_j
$45~{ m GeV}$	$3.3\mathrm{GeV}$	$2.4\mathrm{GeV}$	25.0%	$(3.71 \pm 0.05)\%$
$100~{ m GeV}$	5.8 GeV	$4.1\mathrm{GeV}$	29.5%	$(2.95 \pm 0.04) \%$
$180~{ m GeV}$	$11.2\mathrm{GeV}$	$7.5\mathrm{GeV}$	40.1 %	$(2.99 \pm 0.04) \%$
$250~{ m GeV}$	16.9 GeV	$11.1\mathrm{GeV}$	50.1 %	(3.17 ± 0.05) %

TABLE 3.2-3

Jet energy resolution for $Z \to uds$ events with $|\cos\theta_{q\bar{q}}| < 0.7$, expressed as, rms_{90} for the di-jet energy distribution, the effective constant α in $rms_{90}/E = \alpha(E_{jj})/\sqrt{E_{jj}/GeV}$, and the fractional jet energy resolution for a single jets, σ_{E_j}/E_j . The jet energy resolution is calculated from rms_{90} .

MPGD 読み出し TPC

LC-TPC アジア・グループ

広島大学、KEK、JAXA、近畿大学、工学院大学、Mindanao SU-IIT, 長崎先端研、佐賀大学、清華大学、東京農工大学

ILC 飛跡検出器性能目標

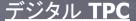
既存のコライダー測定器の飛跡検出器性能を大幅に越える

超高運動量分解能: $\sigma(1/pt) \sim 2-5 \times 10^{-5} \text{ GeV}^{-1}$ ジェット中での高い飛跡検出効率 + カロリメタークラスターとの 1 対 τ 対応 (PFA) カロリメター性能のため前置物質量を最小化すること (PFA) dE/dX 測定 (4%)

ILC 用 MPGD 読み出し TPC の候補

アナログ TPC

GEM + 巾細パッド読み出し: LC TPC アジア・グループ MicroMEGAS + 抵抗皮膜アノード読み出し:



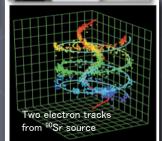
Ingrid-MicroMEGAS + Timepix

ガス増幅揺らぎによる分解能劣化がないパッド角度効果による分解能劣化がない

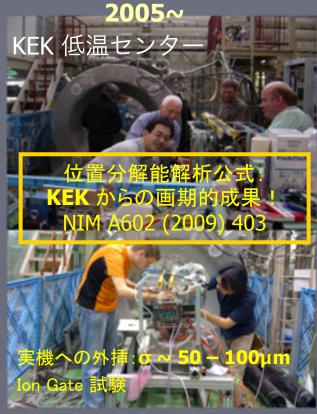
→ 理論上最高の位置分解能が期待できるが未検証





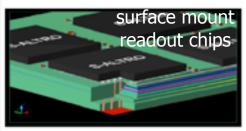


小型プロトタイプ試験

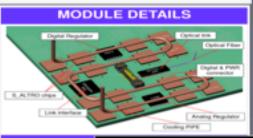


Advanced Endplate 開発研究 2010-2012 の主要課題





The S-ALTRO team at CERN



大型プロトタイプ (LP)試験 2008-2010 PCMAG from KEK





KEK IPNS is a signatory to LC-TPC MoA since 2008 GEM Modules by LC TPC Asia Micromegas Modules by Saclay & Carleton







LP Beam Test at DESY

Field cage, gas system, all mechanics, etc. (EUDET: DESY)



Fine Pixel CCD バーテックス検出器

KEK、JAXA/ISAS、東北、東北学院

ILC VTX の目標性能

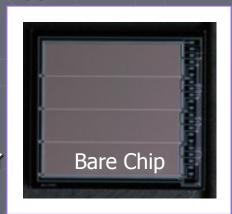
高分解能かつ低物質量の バーテックス検出器の開発

 $\sigma_{IP}^{2} = a^{2} + [(b/p)\sin^{3/2}\theta]^{2}$

	LEP	SLC	LHC	RHIC -II	ILC
a [μm]	25	8	12	13	< 5
b [μm GeV/c]	70	33	70	19	< 10

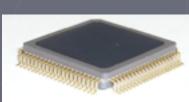
第1回FPCCD Prototype

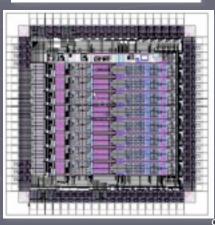
- 12μm ピクセルサイズ
- ▶ 512x512 pixels
- ▶ 6.1mm² イメージエリア
- 4ch /chip
- ► 各チャンネル128(V) x512(H) pixels
- 何種類かの異なったタイプの出力アンプ
- ▶ 浜松ホトニクスで製造



読出しASIC

- Amp, LPF, CDS, ADC, and LVDS driver
- ▶ 2 ADCs/ch が交互に 動作して高速化
- ▶ 最大サンプリング速度 ~ 10 Msamples/s
- ► Charge sharing SAR ADC → 低消費電力
- 0.35μm CMOS





今後の展望 FPCCD VTX R&Dの方向

FPCCDセンサーのR&D

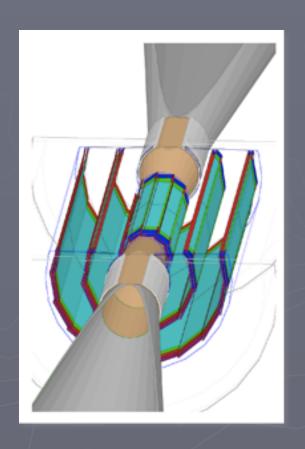
- ■6 μm 画素サイズ
- ■フルサイズ (10x65 mm²)のプロトタイプウェ ファー
- ■ウェファーの薄型化 (~50µm)

読出しエレキ

- ■フロントエンドASIC
- ■クロックドライバー
- ■データ圧縮回路

Engineering study

- ■低物質量のラダーおよび支持機構
- ■冷却システム (~-60 °C)
- ■アラインメント



これらのR&DをTDP-II (by mid 2012)に行う必要がある

超細密カロリメター

アジアグループはストリップ ECAL 開発中心

CALICE Asian Group

神戸、信州、筑波、新潟、東京、Kyongpook KEK には 2004 以降主立った活動なし

ILC CAL の性能目標

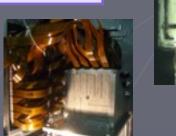
PFAのための超細密性

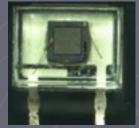
有効セルサイズ <= 1cm x 1cm のサンプリング・カロリメター

- タングステン-シンチ・サンドイッチ構造のサン プリング・カロリメター
- 有効セルサイズ<1cm x 1cm を実現するための
 - シンチレータ・ストリップ構造
 - 膨大なチャネル数 (~10M for ECAL, ~4M for HCAL)
 - -> コスト軽減のため 引き抜きシンチ + 小型光センサーを使用

Multi-Pixel Photon Counter

新型半導体光センサー 浜松との共同開発







CAlorimeter for the Linear Collider Experiment



281 physicists/engineers from 47 institutes and 12 countries coming from the 3 regions (America, Asia and Europe)





CAlorimeter for the Linear Collider Experiment



281 physicists/engineers from 47 institutes and 12 countries coming from the 3 regions (America, Asia and Europe)



今後の展望 将来の Strip CAL R&D の方向

更なる MPPC R&D

- ■ダイナミックレンジ
- ■長期安定性
- ■放射線耐性

シンチレータ・ストリップ

- ■5mm 幅ストリップの開発
- ■反射材の改善
- ■製造工程の最適化

読み出しエレキ

■高度に集積された読み出しチップの開発

キャリブレーション機構 ストリップ・クラスタリングのアルゴリズム開発.....

これらのR&DをTDP-II (by mid 2012)に行う必要がある

ILC 建設に向けて

ILD タイムライン

現在

素粒子物理学の展望/KEK ロードマップ

2009	2010		2011	2012	2013	
LHC	3/pb?	7 TeV Minimum bias, QCD	200/pb? 600GeV sq, 200G stable sl, 1.5TeV			20/fb? 120GeV Η(γγ)
ILC	Technical Design Pha	ase-I			TDR提出	
ILD	Technical Design	hase=I			DBDR提出	
学術創成		最終	報告 継続/新規	!?		
		₹ TDP-I Report	t と連動			•



ILD LOI 採択!

素核研 ILC グループは ILD メンバー LHC からの結果を踏まえた物理のシナリオ更新と測定器の最適化 フルシミュレーション

測定器開発研究(国際協力)



素核研は 2008年 MOAに署名



日本では 大学チーム 中心 VTX (FPCCD)
センサー、読み出し、...
TPC (MPGD)
MPGD 端部検出器
表面実装読み出し
CAL(Sci-Strip)
MPPC、S-S、読み出し、...

⇒ 計画
 承認?

加速器 TDR とともに建設 予算要求へ

ILD

DBDR

予算要求に耐えるレベルの要素技術の完成度、コスト評価の信頼度 が必要!

Main Milestones

